

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日13:00～14:00	会長	青木恭子
例会場	ANAクラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹事	長谷川芳子
承認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	藤谷 猛



世界に希望を生み出そう

2023～2024年度名古屋アイリスRCのテーマ

10年間の礎を力に
情熱の持続と感謝の心で
奉仕と生業に尽力しよう

●お問い合わせ: office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト: http://www.nagoya-iris-rc.jp

第484回 例会

2024年5月22日 13:00～

- 司 会 荒山久美 例会・出席・親睦委員長
- 斉 唱 手に手つないで
- 出席報告 出席者数 13名 / 25名
出席率 52.0%
- ゲ ス ト
- ビジター

ニコボックス

- 青木恭子 会長
元気になりました。ありがとうございます。
皆様とまた一緒に過ごしく願い致します。
- 長谷川芳子 副幹事
今日は例会後、青木会長と一緒に守山ロータリーの60周年記念式典に出席します。
- 荒山久美 副幹事
会員数が減少している当クラブですので、お友達を連れて来て頂けるとありがたいです。会員増強にご協力をお願い致します。
- 加藤正広 書記
ロータリーバッチを忘れました。
- 安井忠 ロータリー財団委員長
昨日、ちょっとだけ嬉し恥ずかしの事がありました。

会長挨拶



新緑も鮮やかな季節になりますとロータリーは次年度の準備に入ります。本日も2回目の理事予定者会議が例会前に開かれ話し合いが持たれました。次の年度へ向けてのスタートです。長谷川幹事をはじめ皆様に助けられながらの会長ですが、ロータリアンとしてだけでなく会長職を与えられ、私は人生ここまで来てまた奥の深い境地と実体験を与えられましたことを感謝しております。私はもう高齢ですがロータリーではまだまだ学ぶことも多いため元気である限りよろしく願い致します。

今朝、新しいAIの活用方法がニュースで報じられまして、その内容は40か国語の同時通訳が出来るというものでした。例えばWEB会議中、スペイン語で話して

いと画面上部に英語で同時通訳された文字が出てきます。次の話者が中国語で話せばこれもまた上部に英語に同時通訳。AIを含んだパソコンの開発がこの様なことが出来るようになったそうです。『バベルの塔』は人類が神をも畏れずに、むしろ凌ぐほど傲慢になってしまったため同一言語を話して意思疎通をしていたのを止めさせ、共通言語を無くしバラバラにして通じ合うことがないようにした旧約聖書の中のお話です。地球には間もなく人類より強いものが出現し、それは人類を制覇すると言われていたらしいのです。私は人類がパソコン、SNSによって瞬時に共通言語で理解し合うことが便利で平和な世の中を創造していくことを願っているとしたら、この温かみも体温も感じない意思疎通が逆に恐ろしいことになるような気がしてなりません。

ロータリーは全世界にあり交流し様々な言語の人々が心を持った交流の中でつたない英語であっても何とかしてコミュニケーションを図り、全世界で喜びを分かち合っています。冷たい機械の中でお互い人としての体温を感じることもなくAIの瞬時の通訳によって交流する人間関係はいずれ温かい心と肉体を持った人間を破壊に導くのではないかと思う次第です。皆様はどのようにお感じになりますか？このような情勢の中ロータリーの存在と理念は何と平和で暖かく、意義があることでしょう。人々はお互いに理解し合うことが出来る豊かなものと言えるのではないのでしょうか。

2024-25年度社会奉仕事業の報告



加藤正広社会奉仕プロジェクト副委員長より2024-25年度の社会奉仕事業について報告がありました。

皆さんこんにちは、次年度の社会奉仕事業のご報告を致します。立案したのは、1月14日の第7回理事会での協議事項で始まりました。

本年度は、10万円の寄付金を行い、次年度は何かイベントを行うという内容です。その理由は、地区補助金を今年度から各ロータリークラブすべてが活用するようとの通達があった為、何かイベントをしなくてはならない状況になった事が、一番の理由です。コロナで名古屋大学小児科病棟への継続奉仕事業もイベントが出来ず、30万円の寄付金のみでの奉仕活動が、引き続き行われることが見えていましたので、他の社会奉仕事業を考えなくてはいけなくなり、急遽考えた内容です。

社会奉仕委員会メンバーで色々検討し、翌2月7日

第 8 回理事会にて協議案件として、ある程度の内容を作り理事メンバーにて協議を戴きました。それが、「愛知こどもホスピスと名古屋アイリス R C クリスマスパーティ会」の開催です。内容に付きまして説明しますと、愛知こどもホスピスの会員親子兄弟姉妹の方を合計で 30 名ご招待をして、アイリス RC メンバーと一緒にクリスマスパーティ会を行う事です。日時は、令和 6 年 12 月 8 日日曜日午前 11 時～12 時 30 分まで。場所は、ここ ANA クラウンプラザグランコート名古屋2階の「ガーデンコート」内 55 名入れるフロアーにて行います。催しは、マジシャン RYUHEI 氏によるマジックショーとクリスマスプレゼントとしてのビンゴ大会を考えています。時間 90 分しかありませんので、まず立食にて 30 分マジックショーで 30 分、ビンゴ大会で 30 分のスケジュールを考えています。

予算につきましては、地区補助金から 15 万円アイリスクリスマス予算から 35 万円トータル 50 万円で行う予定です。皆様をお願いする事は、愛知こどもホスピスさんへの接待とビンゴゲームでのクリスマスプレゼントの選択そして愛知こどもホスピスさんへ配布する参加依頼のチラシの作成です。何方かチラシが作れる方は、おられますか？グランコートさんは、得意ではないでしょうか……

まだ、7 ヶ月ありますので、じっくりと皆さんとで考えて良い方向へ進めて参ります。以上次年度社会奉仕事業の報告を終わります。

こどもホスピス一周年 記念シンポジウム参加報告

4月20日に開催された愛知こどもホスピス一周年記念シンポジウムへ長谷川幹事と私加藤奉仕プロジェクト副委員長が参加されました。その報告を頂きました。

4月20日13時30分～16時30分まで、イオンモール名古屋リタケガーデン3階イオンホールにて開催されました、愛知こどもホスピス一周年記念シンポジウムへ長谷川幹事と私加藤で参加してまいりました。100名程入るホールにて開催されましたが、ここを提供されたのはナゴヤガーデンクリニック様で診療や検診のパフレットが入っており、長谷川幹事も通院されお世話になった事が有ると聞きました。

とにかくこの一年で多数の方のご支援を戴いている事が良く解りましたし、積極的な活動をされている事も良くわかりました。2026年に向けてNPO法人の認定を取ることに邁進されるそうです。内容は、畑中代表理事の1年目の活動を振り返ってから始まり4名の方の講演がありましたが、寝てしまいました。資料の中にチャイルドライフスペシャリストの佐々木美和さんのこの人という投稿が有りましたので、少しお披露目します。

1982年岐阜市に生まれ父母妹の四人家族で育ちました。保育園ではどこにいるかわからないおとなしい子で、小学校では学級委員をするいい子ちゃん、中学高校ではバレー部を辞める勇気もない普通の子でした。家族で海外旅行へ行った時父が『海外で羽ばたけ』と言った事で外国にあこがれていました。大学1年の時に母が乳がんで亡くなり「出会いも別れもある」と父が子

供に伝えていました。通院なども付き合いましたが現実を直視出来ません19歳の別れでした。大学ではボランティアサークルに入会、ある日病院の子供と遊ぶボランティアに参加、病棟のプレイルームで、抗癌剤治療で髪が抜けた子供や、点滴の子供達と楽しく遊びました。「病院の中でもこんな時間が過ごせるんだ」と思いました。その場でチャイルドライフスペシャリストの藤井あけみさんと出会いました。当時日本では数名しかいなく「そんな職種もあるんだ」と初めて知りました。そこで1冊の本を紹介されました。子供を亡くした母親が葬儀での言葉が綴られていました。「悲しいは悲しいけどみんなこの子の人生を祝ってあげて下さい」「ストーン心に落ちました。時間が短くても長くても、その人の人生は素晴らしくて価値がある。祝福されていていいよなって。母の事も良かったと、心から受け入れられました」私もチャイルドライフスペシャリストになりたいとの思いが芽生えました。

米国のカリフォルニア州の大学院へ留学しました。一年目は保育園で研修をし、多分化共生社会へ飛び込みました。英語がなれずに、思うように会話が出来ない日々が続きました。保育園の先生が、言葉が不自由な分私達に見えてないものが見えている、あなたしかいかかわりが有る、あなたはそのままがいいのよ。出来ない自分を受け入れ、私し出来ないから教えてと、飛び込む子供達も受け入れてくれました。子供ホスピスでの研修では、寄り添うことを学びました。「何かをしてあげる・与える・の一方通行の矢印ではない。何をやるわけでもなく、ただその人を思いそこにいることこそ大切なのです」受け入れて、寄り添って生きる事を心に刻み帰国しました。2007年名古屋大学病院小児科病棟でチャイルドライフスペシャリストの道をスタートしました。病院では色々な価値観があります。子供にとって最善か。その在り方に余白が有ることを気付いてもらう事が第一歩でした。

誰もが終わりが来る。それを受け入れてどう生きるかが大切。どんな選択にも生き方にも価値がある。悩むのは当然です。良かった、幸せだったと思える事が大事ではないでしょうか。チャイルドライフスペシャリストとして17年、千人を超える子供たちを支えてきた。その姿は、NHKテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」などでも紹介されています。「接し方は変わりません。横に並び、言葉や表情の変化を感じ取りそのまま受け取っていく。子供の表現できない気持ちや不安を医師や看護師と共有していきます」大学や医療機関などからも授業や講演にも多く招かれます。子供との関わりの根っここの在り方を伝えていきます。子供を支援するなんておこがましい。子供はみんなすごい力を持っています。その力を横にいて育てていくことが大事です。その為に『あなたの存在は素晴らしい』とみんなに関わり続けたいと思います。今、愛知こどもホスピスの設立などにも参加しています。

子供たちに『佐々木さんはポンコツ』と言われながら横にずっといる。そんな場と輪を社会に広げていきたいと思えます。